

砂漠にポプラを植樹

寝具の「フジシン」が中国で

まちのねむり相談所・寝具店の「フジシン」(廿日市市佐方)が中国の砂漠にポプラを



内モンゴル自治区に植林されているポプラ。砂漠のオアシス

を植えてきた。360度、地平線遙かな砂の大地に植林事業の尊さと継続することの大切さを実感したという。訪れたのは、中国・内モンゴル自治区ゴビ砂漠に総称されるクブチ砂漠の一角にある「恩格貝(おんかくば

い)地区。日本砂漠緑化実践協会(創設者・故遠山正瑛氏)が91年から取り組んでいる活動に、06年から提携先である大手寝具メーカー・西川産業(東京)が協力。その年からフジシンも参加した。昨年までの3年間にフジシンは1202本を

植樹し、今年も800本から900本を予定。藤井社長は今回、「西川・緑の協力隊」に加わった。事業全体では300万本を突破。その面積は約300万坪。遠山氏が植林活動の陣頭指揮を執った91年の1本

と1点につき1本のポプラが植えられる仕組み。フジシン佐方店で6点の布団を購入したという廿日市市大野の西橋多津子さん(53)は「小さいころから地球について考えてきて、昨年、エコ検定に合格

たポプラは6本。スコップを使って直径30cm、深さ1m10cmの穴を掘り湿り気を探って苗を植えた。3年で木は1m20cmほどになり自分で水脈を見つけたながら根を張り一気にグリーンと成長して15年で15mの大木に育

眠る時、遙かな大地に思いが届きそう(大野の西橋さん)

植林している。先週、藤井信輝社長(66)が内モンゴル自治区のゴビ砂漠を訪れ、ポプラ

が今では砂漠のオアシスになっている。植林事業は、対象商

品をフジシンで購入す

時、遙かなポプラの1本1本に思いが届きそうです」と話している。藤井社長が今回植え

たい考えだ。さらに、8月1日からは、古い布団の引き取り(無料)を依頼された方からも500円を預かって活動資金に充てたい考えだ。さらに、8

した時期にフジシンさんのこの取り組みをFMはつかいちの番組で知りました。廿日市に



藤井社長は「植林活動は継続的に増やすため、商品を購入しない人にも活動への参加を呼びかけることにしている。『苗木十植林十世話代』として500円を預

つという。今後も植林活動を続けていくフジシンでは、ポプラの本数を継続的に増やすため、商品を購入しない人にも活動への参加を呼びかけることにしている。『苗木十植林十世話代』として500円を預